

第2次南アルプス市総合計画
後期基本計画・施策マネジメントシート

作成日: 令和6年 7月12日

更新日: 令和6年 9月20日

政策No.	2	政策名	ともに生き支えあうまちの形成	施策主管課	市民活動支援課
施策No.	8	施策名	多様性社会の構築	施策主管課長名	清水 充
施策関連課名		政策推進課			

1 施策の目的と指標

(1)対象(誰、何を対象としているのか) ※人や自然資源等		(3)対象指標(対象の大きさを表す指標)		単位
市民		A	人口	人
		B		
		C		
(2)意図(この施策によって対象をどう変えるのか)		(4)成果指標(意図の達成度を表す指標)		単位
年齢・性別・文化などに関係なく互いに尊重して暮らすことができる		①	職場や地域で男女差別を感じている市民の割合	%
		②	審議会等における女性委員比率	%
		③	バリアフリーやユニバーサルデザインの意味を知っている市民の割合	%
		④	多文化共生社会を知っている市民の割合	%
成果指標設定の考え方 (成果指標設定の理由)	①	男女共同参画の浸透状況を示す／性別に関係なく互いに尊重されていけば、職場や地域での男女差別はなくなり、男女差別を感じる市民が減っていくので、成果指標とした。		
	②	市政への女性の参画状況を示す／市の審議会等の委員は男性が多いのが現状である。多様性が尊重されたまちづくりを行うためには、各種計画の策定や進捗管理などを行う審議会等の男女比率が同程度に近づき、男女双方の意見が反映されるべきなので、成果指標とした。		
	③	バリアフリー・ユニバーサルデザインの認知度を示す／多様性が尊重されるためには、日常生活や社会生活におけるあらゆる障壁を取り除き(バリアフリー)、すべての人が気持ちよく使えるよう生活環境を計画する(ユニバーサルデザイン)ことへの理解が重要であるため、成果指標とした。前期においては「障がい者福祉の充実」の成果指標であったが、障がいの有無だけでなく年齢、性別、国籍、人種などにかかわらず様々な人を対象とするため、「多様性社会の推進」の成果指標とした。		
	④	多文化共生社会の認知度を示す／市内にも外国人が増えている中、多様性が尊重されるためには「多文化共生社会」を市民が知る必要があるため、成果指標とした。※多文化共生社会・・・国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的な違いを認め、対等な関係を築こうとしながら、ともに生きていく社会。		
成果指標の測定方法 (どのように実績値を把握するか)	①	市民アンケート「職場や地域で男女差別を感じていますか」において、「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した人の割合<低下したほうが成果向上>		
	②	「法律・条例等により設置されている審議会等一覧」の女性委員数÷総委員数×100		
	③	市民アンケート「バリアフリー」や「ユニバーサルデザイン」の意味をご存知ですか」において、「知っている」と回答した市民の割合		
	④	市民アンケート「多文化共生社会」とはどのような社会かをご存知ですか」において、「知っている」と回答した市民の割合		

2 指標等の推移

指標名			単位	数値区分	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
対象指標	A	人口	人	見込み値					71,089	70,568	70,041	69,521	68,996	68,430	
				実績値	72,305	72,018	71,880	71,602	71,370	71,249	71,395	71,434	71,511		
	B			見込み値											
				実績値											
成果指標	C			見込み値											
				実績値											
	①	職場や地域で男女差別を感じている市民の割合	%	目標値	19.0	18.0	17.0	16.0	15.0	25.0	23.0	21.0	19.0	15.0	
				実績値	27.5	23.5	25.1	26.5	22.5	27.7	25.1	23.7	25.4		
②	審議会等における女性委員比率	%	目標値	38.4	38.8	39.2	39.6	40.0	37.5	38.0	38.5	39.0	40.0		
			実績値	34.5	34.3	36.1	36.2	36.2	33.4	31.8	33.5	27.1			
	③	バリアフリーやユニバーサルデザインの意味を知っている市民の割合	%	目標値	62.0	64.0	66.0	68.0	70.0	54.0	57.0	60.0	62.0	65.0	
				実績値	57.0	50.4	57.0	50.6	53.5	53.0	53.4	53.3	51.6		
④		多文化共生社会を知っている市民の割合	%	目標値	-	-	-	-	-	15.0	17.5	20.0	22.5	25.0	
				実績値	-	-	-	12.8	13.7	11.7	14.1	14.5	14.2		
	目標設定の考え方・理由(可能性と必然性)														
	① 前期最終年度の目標値に達成しておらず実績値は横ばいのため、後期の目標値は実績値から最終的に前期の目標値になるよう設定する。														
② 県の第4次男女共同参画計画における審議会等委員への女性登用率が目標値40.0%(H33)となっているのでそれと同様とする。															
③ 前期では「障害者福祉の充実」の成果指標だが、平成27年度以降60.0%に達しておらず、目標値(70.0%)から10ポイント以上低い実績値が続いているため、まず3年目の令和4年度に前期基本計画の現況値(平成25年度・60.8%)と同水準に戻し、そこからさらに5ポイント増の65.0%を目標とした。															
④ 後期で新しい成果指標となった。目標設定については、現況値(平成30年度・12.8%)では約1割にしか認識されていないところを、令和2年度には4人に1人が「知っている」と回答することを目指し、25.0%とした。															

3 施策の役割分担

①市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	②行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
男女が互いにその人権を尊重する。偏見を持たない。差別をしない。性別に関わりなく個性と能力を発揮していく。	・男性中心型労働慣行の見直しや多様な働き方の普及、人事の見直し。男女平等意識を高める。また、仕事と子育て等を両立できる環境整備(子育て支援)を行う。啓発・周知する。 ・すべての人が使いやすいよう公共施設のバリアフリー化を進める。 ・窓口対応や証明書の発行などにあたっては、可能な限り市民の多様性に配慮する。

4 施策の状況変化・住民意見等 ※目標設定の前提とした後期基本計画策定時点の状況変化・住民意見等を記載しています。

①施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(～R6年度末を見越して)どのように変化するか?)	②関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
LGBTという性別を超えた価値判断が社会の中で取りざたされている。社会が高度化するに連れ、性別・人権を取り巻く基準・判断が変化していく。争いのない平和な社会が継続していくか、国際的紛争が発生するか、可能性はどちらも言えない。男・女、日本人・外国人という比較の前に、人として個人を尊重するという考えが必要な時代となる。	その時代に合った判断ができるよう意識改革の必要がある。そのための知識・教養を高めていく必要がある。また、多様性を認め合う社会を構築していくため、他の自治体に先駆けて何らかの対策を取るべきである。

5 予算等の推移

※当初予算。骨格予算の年度は6月補正後

区分		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
関連事業本数		13	10	11	11	12
関連事業予算額(単位:千円)		20,254	17,034	17,257	17,893	22,419
(予算額の内訳)	国庫支出金	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	570	278
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	10,900	9,000	11,000	12,000	15,000
	一般財源	9,354	8,034	6,257	5,323	7,141

(1) 目標達成度(目標値との比較)	※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)
☐ 目標より高い実績値だった ☐ どちらかといえば目標より高い実績値だった ☐ 目標どおりの実績値だった ☒ どちらかといえば目標より低い実績値だった ☐ 目標より低い実績値だった	成果指標②については、審議会等における女性委員比率の数値が大きく減少した理由として、審議会に該当しない民生委員協議会を審議会から除いたため低下した。 成果指標①職場や地域で男女差別を感じている市民の割合、成果指標③バリアフリーやユニバーサルデザインの意味を知っている市民の割合、成果指標④多文化共生社会を知っている市民の割合は実績値はいずれも目標値を下回ったため、どちらかといえば目標より低い実績値だったとした。
(2) 時系列比較(どのように変化してきたか)	※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)
☐ 成果がかなり向上した ☐ 成果がどちらかといえば向上した ☐ 成果はほとんど変わらない(横ばい状態) ☒ 成果がどちらかといえば低下した ☐ 成果がかなり低下した	4つの成果指標において、全ての数値が低下した。要因として考えられることとして、成果指標①③④については意識の啓発が不足し、認識が不十分と考えられる。成果指標②については、審議会に該当しない民生委員協議会を審議会から除いたため低下した。
(3) 他団体比較(近隣他市、県・国との比較など)	※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)
☐ かなり高い成果水準である ☐ どちらかといえば高い成果水準である ☐ ほぼ同水準である ☒ どちらかといえば低い成果水準である ☐ かなり低い成果水準である	成果指標①③④は市民アンケートの結果によるものであり、単純に他市との比較は困難である。成果指標②については、他市と比較すると女性比率は、一番多かったが、今回調査の委員の整理において数値が大きく減少し、近隣他市と比較すると、34.3%の荏岐市、30.4%北杜市、本市の27.1%と低い数値であった。

7 基本計画期間における施策方針

(1) 施策の基本方針
・家庭・地域社会・職場それぞれの環境の中で男女共同参画を推進する。 ・互いを尊重しあい、共感しあえる社会(多様性の社会)を構築するための周知啓発と体制の整備に努める。

8 施策の目標達成のための基本事業の今年度(R6年度)の取組(事務事業)状況・今後の課題と次年度(R7年度)の方針

基本事業		今年度(R6)の取組(事務事業)状況及び今後の課題	次年度(R7)の方針
1	男女共同参画の推進	市民と職員で構成されたハーモニープラン推進会議において、今年度策定する男女共同参画基本計画に関わる市民と考えるワークショップを開催する予定である。さらには推進委員と共に計画したイベントを計画し啓発を実施する。年度末には、推進委員の活動をまとめた情報誌を発行するとともに、市HPやFacebook等で周知に努める。 市として、41項目の数値目標達成に向け、庁内で連携した取り組みを推進する。	新たな計画が策定されることによる、記念講演会等を計画している。 家庭・職場・地域での男女差別の解消、女性活躍の推進、誰もが自由に意見が言え、互いに尊重する社会を目指す。さらにハーモニープラン推進会議の委員を中心に、男女共同参画社会を形成できるような、人材育成を行う。 行政機関・審議会等において、女性を積極的に登用していくよう、事前協議の中で庁内関係課に働きかけて行く。
2	多様性社会の構築に向けた環境整備	ハーモニープラン推進会議で、研修会等を実施し、多様性社会について正しく学び地域へ還元できる人材を増やしていく。さらに、ハーモニープラン推進会議の活動等を、ハーモニーフォーラムや情報誌で紹介すると共に、市HPやFacebook等で発信していく。 県が推進するパートナーシップ宣誓制度については、他自治体と歩調を合わせながら対応していく。 外国籍の市民も、住み易いと感じてもらえるよう、国際交流協会と連携し、日本語教室などを実施している。	多様性社会については正しい理解が必要なため、引き続き研修会を実施して深めていく。また、ハーモニープラン推進会議の活動等を、ハーモニーフォーラムや機関誌で紹介すると共に、市HPやFacebook等で発信していく。 県が推進するパートナーシップ宣誓制度については、他自治体と歩調を合わせながら対応していく。 国際交流協会と連携し、前年度の課題などに対応しながら日本語教室を実施していく。
3			
4			
5			